

食用なばな・秋冬どり(花飾り・花かんざし)

君津農林振興センター

1 地区名

富津市天羽地区

2 栽培戸数、栽培面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 2戸
- (2) 栽培面積 38a
- (3) 収穫量又は出荷量 1,520kg/38a (出荷見込み)
- (4) 出荷先又は販売方法 契約販売

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	7回	7回
化学肥料(窒素分量)	19.8kg/10a	20kg/10a

4 事例のあらまし

富津市天羽地区では、平成16年度に3戸、平成17年度には2戸の農家が、ちばエコでの食用なばな栽培に取り組んでいます。平成16年度は水田及び畑で栽培されましたが、水田でのなばなの収量は、肥料不足から慣行の50～60%と大幅に低下してしまいました。

そこで平成17年度は、稲作への影響がなく堆肥の施用量を増やせる畑での取組に限定して、窒素肥料の代替として堆肥を積極的に利用してのちばエコに取り組むこととなりました。また品種についても、蕾の色の濃い品種である「花飾り」、「花かんざし」を主に利用することとし、さらに根こぶ病やヨトウムシなどの病害虫の回避から、は種期を遅らせて取り組むこととしました。

5 背景・動機

富津市天羽地区は、水田を中心とした農業経営が行われており、また水田裏作に食用なばなが約22ha栽培されています。食用なばなは、高齢者・女性でも比較的簡単に取り組める野菜ですが、一人あたりの作付け面積は、出荷調整に手間がかかることから平均13.4aとかなり少ない品目です。

こうした中、富津市は、単独事業として環境にやさしい農業を導入し、富津市産の堆肥を活用しての稲作・園芸品目生産の振興をすすめています。この事業の中で、堆肥利用の技術確立を図るための、地域の基幹品目である「食用なばな」「かぼちゃ」「水稻」

に展示ほを設置して進めることになりました。

加えて、農林振興センターでも、「食用なばな」はグレードアップ産地育成普及活動推進事業の重点推進品目として位置付けており、多様な販路が期待できるちばエコでの栽培の推進も図っていました。そこで天羽地区の農家に対して、ちばエコ栽培推進を図りましたが、ちばエコに対して3戸が興味を示しました。このため、平成16年度は、この3戸の農家で環境にやさしい農業の展示ほとしてちばエコに取り組みました。なお、平成17年度は、前年度の低収量をうけて1戸が継続を断念、残り2戸も水田での取組はあきらめて、畑には場を限定して取り組むこととなりました。



6 栽培方法

- (1) 作型選定 病虫害の防除回数が限られているため、8月下旬～9月中旬では、根こぶ病・ヨトウムシなどの発生が懸念されます。そのため、作型として9月中下旬以降には種する作型とします。
- (2) 品種選定 化学肥料を抑えると、葉色・蕾色が淡い傾向が見られています。そのため、品種として蕾色の濃い、「花飾り」や根こぶ病抵抗性品種の「花かんざし」などを選定します。
- (3) 堆肥施用 畑の場合、堆肥の施用量を4 t程度まで増やして、化学肥料の不足分を補う必要があります。(但し、水田では堆肥を入れすぎると稲への影響も心配されるため注意が必要)
- (4) 施肥 全面全層施肥を避け、ベツト部分への施肥を実施します。
- (5) は種 点播とします。は種量の目安は3～4 dl/10 a
- (6) 間引き 間引きは早めに実施します。(2回に分けます)
「花かんざし」は「花飾り」に比べ、株間を広めに確保します。
- (7) 追肥 追肥は、播種後1ヶ月ごとに3回ほど生育をみて実施します。
- (8) 病虫害防除 早期防除に努めます。とくにヨトウムシやコナガの発生に注意します。

(9) その他栽培にあたって注意すること。

水田で堆肥の施用量を増やした場合、次作への稲への影響が想定されるため、倒伏・いもち病などの回避対策が必要となってきます。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成17年3月1日
耕起	9月25日
播種	9月25日
病虫害防除	9月25日(2) 10月15日(1) 10月25日(2) 11月25日(2)
収穫開始	12月25日
収穫終了	3月10日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N-P-K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
牛糞堆肥	8月25日	4 t		
苦土石灰	9月25日	100kg		
グローアップパワー(10-10-6)	9月25日	200kg	20kg	10.2kg
Vポーラス (16-7-12)	10月25日	20kg	3.2kg	3.2kg
Vポーラス (16-7-12)	11月25日	20kg	3.2kg	3.2kg
Vポーラス (16-7-12)	12月25日	20kg	3.2kg	3.2kg
合 計			29.6kg	19.8kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
※トレファノサイド粒剤2.5	畑地一年生雑草	9月25日
アドマイヤー1粒剤	アブラムシ類	9月25日
パダンSG水溶剤	アブラムシ類・コナガ	10月15日
ダコニール1000	白斑病・べと病	10月25日
アフーム乳剤	ハスモンヨトウ・コナガ	10月25日
カスミンボルドー	黒腐病	11月25日
パダンSG水溶剤	アブラムシ類・コナガ	11月25日
化学合成農薬使用回数7回(総使用回数7回)		

※印は経過措置承認農薬で、使用にあたっては、誓約書の提出や使用期限等に制限・制約があります。なお、今後、食用なばなへの登録拡大が行われない場合は、使用ができなくなりますので注意してください。

7 今後の展望等

食用なばなは、蕾の色の濃いものが流通で高く評価されます。現在の基準で化学肥料を抑えたものは、蕾の色が淡くなる傾向があります。そのため栽培にあたっては、品種選定などに注意し推進を図る必要があります。また、食用なばなは、管内では水田裏作での栽培が主体です。ちばエコの拡大に向けては水田裏作としての減化学肥料のための技術確立が不可欠であり、早急な技術確立が求められます。

さらに、束出荷の場合、食用なばなは、特に蕾の色が品質評価の優先項目になるため、袋詰めやスタンドパックなどの束以外の荷姿での取組検討も求められます。蕾の色が問われない出荷先との契約販売を組み合わせる必要もあると思われます。

しかしながら、食用なばなは、栄養価に富み、旬を感じる貴重な野菜です。ちばエコとの組み合わせにより、付加価値がつくことを期待したいものです。